

社会性の発達

さまざまな特質から赤ちゃんの心を知る

▶ 生理的な特質

身体的反応、生理的な指標の変化から心を探る

➡心拍数から緊張・興奮、唾液に含まれるコルチゾールからストレスの指標

▶ 行動的な特質

赤ちゃん自身の行動から心を探る

➡特に注目されるのが「視線」

赤ちゃんは人が好き

- ▶ 生まれた直後から人が発する刺激を好む。
 - ➡ 人の声、声、動き、匂いなど。とくにお母さんの声や匂いに敏感。
- ▶ 赤ちゃんは未熟な存在。
 - ➡ コミュニケーションを取る必要性があり、その力が生得的に備わっている。

社会性を進化させてきた

- ▶ 人は未熟な状態で生まれてくる。
 - ➡ 未熟な赤ちゃんは他者に養育してもらわなければならない。
親は他者と協力して育児をしていく必要がある。
- ▶ 人は社会的コミュニケーションの獲得の中でも、非言語的コミュニケーションを用いて生後間もなくから他者と**相互作用**することで社会性を発達し始める。

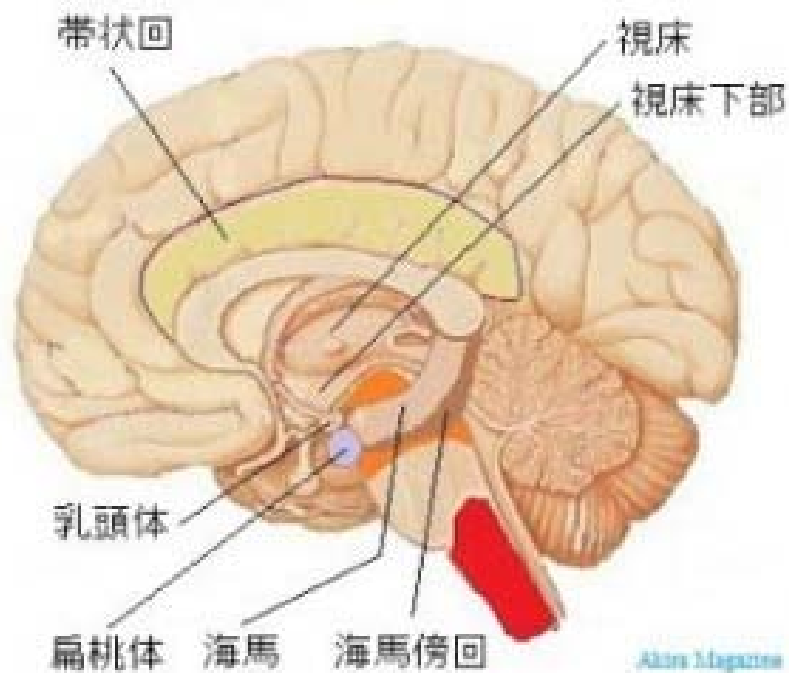
快・不快から始まる情動の発達

- ▶ 快・不快からの二つの情動が「私らしさ」をつくる始まり
- ▶ 不快なことを泣いて伝える⇒両親（周りの大人）が対応してくれる。（相互作用が生まれる）

※後の愛情、共感などの情動へ発達していくきっかけになる。

基本情動の発達

幸福、恐怖、怒り、憎悪、悲しみ、驚き等の基本情動に関与
➡ **大脳辺縁系**（帯状回・海馬傍回・海馬・扁桃体等）とこれらを統合する**前頭前野**



恐怖反応

目の前にへびがいた！

→扁桃体が興奮

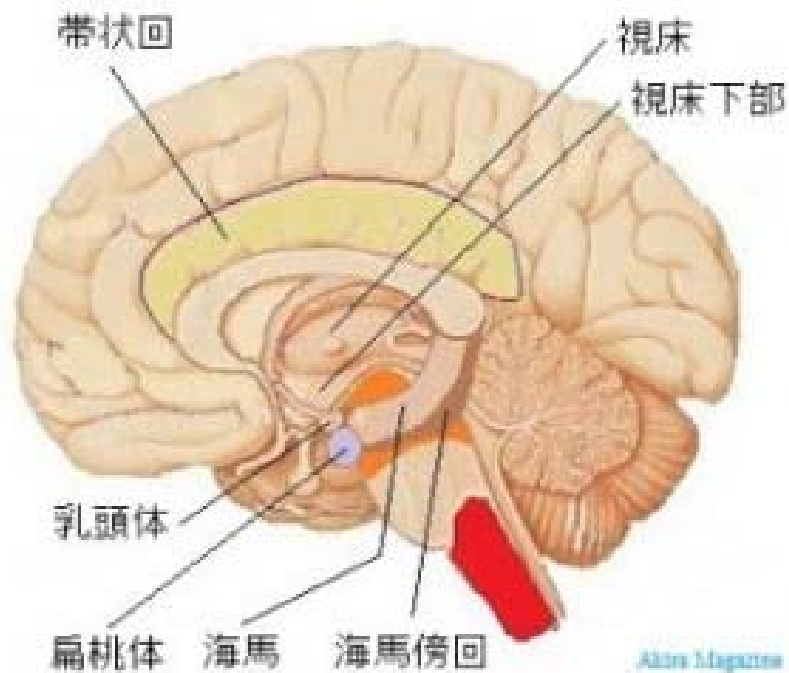
→脳幹の活動を引き起こす

→逃げる、回避行動、反射的に起こる

前頭前野の発達

前頭前野は、扁桃体の過剰な反応を抑制する機能を持つ

抑制には、**ポジティブな思考**や予期によって起こるため**扁桃体と前頭前野の機能の発達**が幼児期には重要



そのためには、他者とのコミュニケーションにおける**ポジティブな関係性の構築**が必要。

非言語、言語的な**あたたかなコミュニケーション**

社会的情動の発達

- ▶ 誇り、困惑、罪、恥、敬服、嫉妬などの社会的な情動の発達は、大脳辺縁系だけではなく、大脳皮質が大きく関与する脳の細胞神経細胞ネットワークの構築が必要。
- ▶ 他者や物とのやり取りの中で育まれていく。
- ▶ 後天的に発達し、社会能力を身につけていく。

共感システム

- ▶ 人を見る、人の行為を見る、アイコンタクト等の**見る力**は社会性の発達の基盤。
- ▶ 人は顔の領域に注意を向ける、真似する。怒りよりも**笑顔**の方が**扁桃体の働きを活性化**させる。（自閉症スペクトラム症児は扁桃体の機能異常が関係するといわれている。）
- ▶ 情動行動の基盤となる**扁桃体**の機能形成には、赤ちゃんの時から**視覚的なコミュニケーション**が基盤。

二項関係から三項関係へ

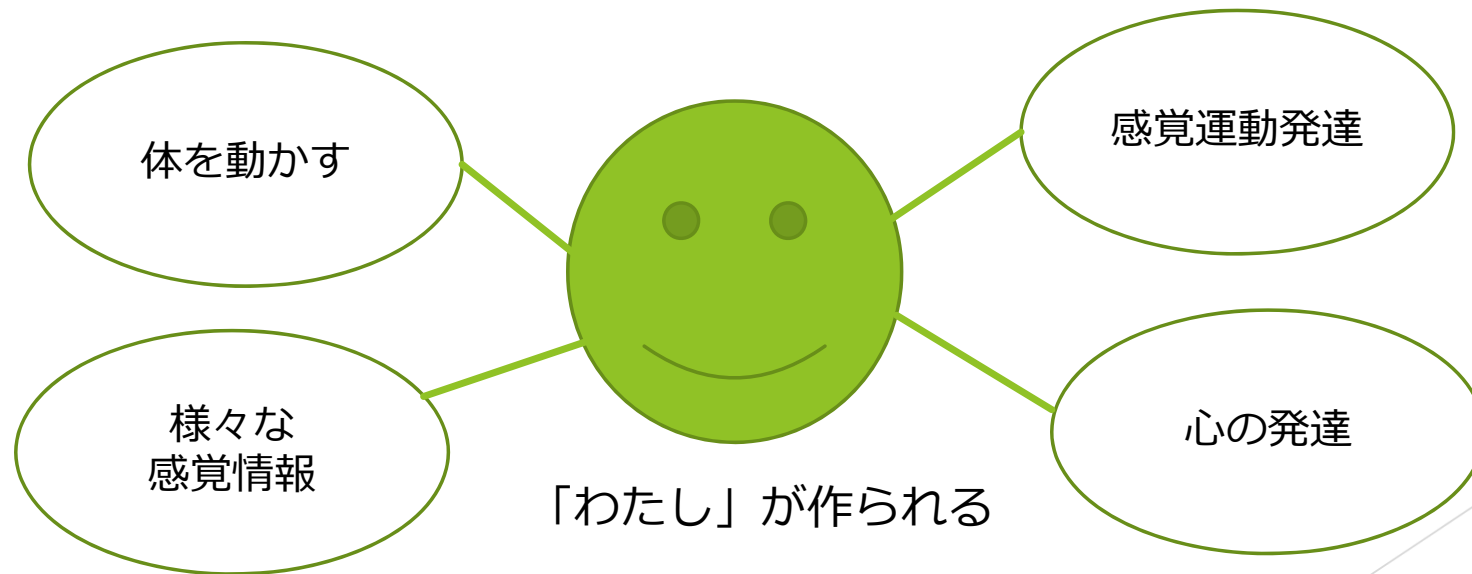
- ▶ 二項関係 → 「自分」と「養育者（他者）」のやり取り
（ 生後2か月ごろに成立 ）

三項関係（共同注意）への発達

- ▶ 9～10か月ごろから
- ▶ 自分と他者と第三のものが散在する状態。
- ▶ 自分の意思を伝えようとしたり、相手の意図をくみ取ろうとする、相互作用が生まれる。

共同注意と心の理論

- ▶ 12ヵ月ごろ
- ▶ 三項関係を通して、赤ちゃんが自分と他者を区別して、自分以外の人
が自分とは違う意図を持った存在であると分かる。



共同注意は心の理論の原点

まとめ

- ▶ 快と不快から始まる情動の発達 ➡ 二項関係
- ▶ ものを介在することで生まれる三項関係
- ▶ 自分と他者の違いに気付く、相手の身になって考える ➡ 心の理論



情動の発達には感情を生み出す扁桃体の機能の促進
と
前頭前野の抑制とのバランスが大切

扁桃体 → 他者との心地よいセンサーコミュニケーションで
活性化される

まとめ

▶ 心地よいセンサーコミュニケーション

乳児期：アタッチメント形成

幼児期：抱っこ、じゃれ合う、追いかけてっこ、スキンシップ、などの遊びを積極的に行った後、ルールのある遊びに切り替えることで前頭前野働かせる。

センサーコミュニケーション（非言語的で身体を介したコミュニケーション）によって、**前頭前野と扁桃体のネットワークを構築**していく。

まとめ3

- ▶ 共同注意から社会性を育む

模倣 ➡ 他者をよく見て気づく経験 ➡ 他者との行為から知る

- ▶ センソリーコミュニケーション

ポジティブなコミュニケーションを大切にする

(たくさんはしゃぐ、楽しさの共有、ことばを介さないコミュニケーション)

- ▶ 幼児期では、徐々にルールのある終わりに。(行為の理解、終わりへの予測)

➡ 子どもが自分で気づくことが大切、はじめは見ていただけでいい。

- ▶ 問題行動といわれるものも快・不快の気持ちを受け入れること、考えること。